

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472900719	事業の開始年月日	平成17・2・1	
		指定年月日	平成17・2・1	
法人名	有眼会社ばすてる			
事業所名	どんぐり庵			
所在地	(〒243-0213) 神奈川県厚木市飯山2237-9			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成21・9・20	評価結果 市町村受理日	平成22年2月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりへの理解を深めていくことを重点におき、その方がやりたいと思っていることの実現やできることが発揮できるように日々かかわっている。それに伴い職員がこの人のためにこうしたいという思いや工夫したいと考えていることは最大限おこなえるように努めている。また、今年にはいつからお二人の方の看取りを経験させてもらっている。初期の段階からご家族と医療関係者、職員とは十分に話し合い、グループホームでできることも了解していただいたうえで看取りをさせていただいた。これは最期までお世話したいという職員の思いとご本人、ご家族がこちらで過ごしたいという思いが一致したこと、及ばずながらもこれまでの生活の支援をおこなう過程で信頼関係が構築されてきたためおこなえたことだと感じている。これからも信頼関係が築けるようなかわりを目指し「最期までいきいきとその方らしい生活を送る」ことを目標にしていきたい

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPRATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成21年11月14日	評価機関 評価決定日	平成21年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴  
 ①このホームの特徴は開設の動機にこそある。法人代表は看護師であり、勤務の病院での治療には馴染まない認知症の方々のケアが出来る場所の必要性を感じて認知症専門のデイサービス「みみおくらぶ」を開所し、認知症の方をお預かりし、個別介護により、それぞれの希望することをサポートを開始したところ、大幅な改善が見られた。とは云え家庭でのケアが限界に達した方々の生活の場が必要と感じ、このグループホームの設立に至った。初めから、可能で、ご家族の希望のある方に対してはターミナルケアを受入れる覚悟を持っての開設であるため、そのケアに対する真摯さは絶大である。例えば、食事は独自メニューで、利用者の希望を入れて自ら買い物から行っている。買い物についても、職員が1人で買い物に行く事を禁止し、必ず利用者連れて行き、買い物の楽しさを忘れないことと併せて買い物に行くことでの生活リハビリにも心がけている。職員の自由な発想を促す提案制度(褒章あり)と管理者自ら100%のケアを守る厳しさを併せてバランスの取れた前向きなホームである。利用者のご家族にはイベントのDVDや旬刊のとんちゃんダイアリーで細かくお知らせし共に支援する体制に心がけている。  
 ②地域との連携については自治会の関係でお祭り、どんと焼き、自治会会館で行われるミニデイなどに参加し、地域との関連を維持している。お祭りの子ども神輿は前の駐車場にまで入ってくれるので、テントを張り、冷たいジュースを用意して休憩所にして喜ばれている。厚木市は福祉行政に熱心であり、市で主催している介護保険指定事業所の協議会を持ち(このホームの管理者も役員として協力している)、その中で話の出た介護の合同就職相談会を市の費用で、実行委員会が2回実施(2回目は11月の予定)するなど市と介護事業所の連携は良い。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I 理念に基づく運営							
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことをその方の状況に合わせて整えていくことを通していきいきとした生活を送ることができるようにと考えている。	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことをその方の状況に合わせて整えていくことを通していきいきとした生活を送ることができるようにと考えている。理念の周知については新入時に重点的に教育し、職員会議で介護施設の不祥事などある毎に話題にしながらい理念を考えるようにしている。	今後の継続		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域でのお祭りやどんど焼などに参加している。民生委員やボランティアさんからミニデイの案内をいただくので参加させてもらっている。	自治会に加入し、地域でのお祭りやどんど焼などに参加している。民生委員やボランティアさんからミニデイの案内を頂き参加している。お祭りの子ども神輿は前の駐車場にまで入ってくれるので、テントを張り、冷たいジュースを用意して休憩所にして喜ばれている。	今後の継続		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な機会はないが、地域の方からの相談があれば気軽に応じている。今後、地域包括支援センター等と協力していきたい。	/		/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方にも参加していただき事業内容への意見を求め、参考にしている。公表後の外部評価については説明し目を通していただいている。	地域の方にも参加していただき事業内容への意見を求め、参考にしている。公表後の外部評価については説明し目を通していただいている。メンバーは自治会長、民生委員、大家さん、ご家族で市役所、地域包括支援センターの方も必ず出席してくれている。案内状は郵送せず、必ず手渡しでお願いするようにしている。	今後の継続		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの現状や介護保険制度について市町村はもちろん市議会議員等とも話し合う機会を得ている。できるだけ事実を伝えお互いに協力しあえる関係作りをしている。	グループホームの現状や介護保険制度について市町村はもちろん市議会議員等とも話し合う機会を得ている。できるだけ事実を伝えお互いに協力しあえる関係作りをしている。厚木市は福祉行政に熱心であり、市で主催している介護保険指定事業所の協議会を持ち（このホームの管理者も役員として協力している）、その中で話の出た介護の合同就職相談会を市の費用で、実行委員会で2回実施（2回目は11月の予定）するなど市と介護事業所の連携は良い。	今後の継続		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から物理的拘束、精神的拘束等については職員に説明している。外に出たいときには希望に沿うようにし見守りをしているが、玄関の鍵は施錠している。	「認知症介護の仕事で肝に銘じて欲しい基本の心得」の中に魔の3大拘束について解説し、日頃から物理的、精神的拘束等について職員に説明している。外に出たいときには希望に沿うようにし見守りをしているが、現状、徘徊の強い方がいて、玄関の鍵は施錠している。拘束の弊害の認識は介護の基本であり、全ての拘束が無いケアを目指している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会を持つようにしている。職員の不適切な発言や行動があればその都度注意するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方はいないが子供のいない方もいるので今後、検討する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回の契約は時間をかけ丁寧に説明し同意を得るように心がけている。内容の変更があるときもその都度同意書や変更となった書類を説明し、納得いただいた上で印鑑等をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けていないが、来所時はこちらから声をかけ話しやすい雰囲気を心掛け、入居者様の日頃の暮らしぶりについては紙面で毎月送付している。ご意見シートを用意いつでも記入できるようにしている。	家族会は設けていないが、来所時はこちらから声をかけ話しやすい雰囲気を心掛け、入居者様の日頃の暮らしぶりについては紙面（お知らせシート）を毎月送付している。お知らせシートは毎日の特徴を1日1行にまとめ、それに1ヶ月分のコメント（感想等）を沿えて作成したものである。また、ご意見シートを用意いつでも記入できるようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングのほかに職員会議や提案制度を設けるなどできるだけ日頃勤務している職員から自由な意見が聞けるように配慮している。今後は定期的に面談等をし仕事への意欲が高められるようにしていきたい。	毎月のミーティングのほかに職員会議や提案制度を設けるなどできるだけ日頃勤務している職員から自由な意見が聞けるように配慮している。今後は定期的に面談等をし仕事への意欲が高められるようにしていきたい。提案制度ケア全般に関する改善・アイデアを募るもので、社長賞、とんちゃん賞、多賞、少賞など褒章制度も併用している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員配置や労働時間等できる限り勤務しやすい環境作りをおこなっている。また、一人一人の勤務実績に応じて年末に寸志として出すこともある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時の研修は具体的な取り組みを示し他職員も理解できるように工夫している。現職員には毎月のミーティングや外部研修を受けることによってスキルアップが図れるように取り組んでいる。今後は外部研修参加後に研修発表会を計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の介護保険関係の会合等には積極的に参加できるようにしている。相互研修の機会を活かし研修に出向いたり、来ていただくこともおこなっている。市内の各事業所に訪問し近況のお知らせを実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定前に本人と会い、現在の生活状況やこれまでの生活歴をうかがっている。入居にあたって心配なことや要望なども出来る限りお聴きし関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み前には必ず見学にいらしていただきお話をうかがっている。信頼関係が築けるよう丁寧に対応するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、満室や他の理由で受入が困難の場合には他施設の空き情報を確認し紹介するなどして他サービスへつなげられるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多くの入居者に得意分野で力を発揮してもらうように心がけている。時には入居者からいたわりの言葉や、励ましてもらう場面もある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食欲がないときは好きな食べ物を再度家族へ聞き準備したり、時には一緒に考えたりすることもある。外出なども家族の協力を依頼することがある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が一番大切に思っている人の存在を知るようにし、その方とのつながりが継続できるように支援している。知人、親戚の訪問などは自由にいただいている。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲の良し悪しに配慮しつつ、一緒に料理や散歩するなどおこなっている。手をさするなどのちょっとしたいたわりあいが見られることもしばしばある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用しなくなっても自由に訪問していただいたり、必要時には要望にこたえるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴等を参考にし本人との会話や表情などから知るように努めている。職員間ではミーティングで検討しあう時間を設けている。	これまでの生活歴等を参考にし本人との会話や表情などから知るように努めている。職員間ではミーティングで検討しあう時間を設けている。利用者のご家族にはイベントのDVDや旬刊のとんちゃんダイアリーで細かくお知らせし共に利用者の様子を共有し、共に思いや意向を把握し支援する体制に心がけている。メニューの決定についても本人やご家族から聞いた〇〇さんの好みを生かし「〇〇さんのお薦めメニュー」などとネーミングして発表、喜んで頂くなどの工夫もしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴やサービス利用に至るまでの様子をうかがっている。当時の様子はフェイスシートに記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や、状態については記録に残し申し送りもおこない把握している。「できること」などは特に知ってもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成の段階で本人や家族から要望等をうかがっている。職員間でも検討する時間を設け、今、必要なことを介護計画として作成している。	作成の段階で本人や家族から要望等をうかがっている。職員間でも検討する時間を設け、今、必要なことを介護計画として作成している。ケアの方針は普段からやって頂くことであり、買い物についても、職員が1人で買い物に行く事を禁止し、必ず利用者を連れて行き、買い物の楽しさを忘れないことと併せて買い物に行くことでの生活リハビリにも心がけている。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は介護計画の目標に対しての経過や結果を記載している。日々の情報は業務日誌に記録し職員は毎回、情報を得てから勤務に就いている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が全てを担うのではなく、必要に応じて訪問栄養指導を取り入れるなど積極的に外部のサービスも導入しようとしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ミニデイや地域の行事に参加し、ホーム内だけの生活にならないようにしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関には職員が付き添うが受診前と後には必ず家族へ連絡し状況を伝えている。それ以外への受診は家族の協力を得ているが受診内容については聞くようにしている。	かかりつけ医による月2回の定期往診はご家族のご希望により全員が受ける体制となっている。協力医療機関には職員が付き添うが受診前と後には必ず家族へ連絡し状況を伝えている。専門他科等それ以外への受診は家族の協力を得ているが受診内容については聞くようにしている。	今後の継続	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化があるときはすぐに相談できる看護師がいる。緊急時には24時間連絡がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリー等を作成しホームでの様子を知っていただくように努めている。退院時には担当看護師や医師に話を聞く機会を設けてもらい退院後の生活に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医からの家族への説明を踏まえ今後どのようなケアをしていくか家族と話し合う場を持っている。話し合った内容は全ての職員が理解し、ケアに参加している。	初めから、可能で、ご家族の希望のある方に対してはターミナルケアを受入れる覚悟を持っての設立であり、重度化した場合や終末期のあり方の確たる意向を持っている。重度化した場合や終末期のあり方についてはかかりつけ医からの家族への説明を踏まえ家族と話し合う場を持っている。話し合った内容は全ての職員が理解し、ケアを進めている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	テキストを基に実習スタイルで内部研修を実施する。今後も定期的に年数回にわけながら実施する予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火事を想定した避難訓練を実施予定。運営推進会議では地域の方の協力が得られるような体制作りを検討しているが実際に合同訓練を行ったことはない。今後計画したい。	年2回火事を想定した避難訓練を実施予定。運営推進会議では地域の方の協力が得られるような体制作りを検討しているが実際に合同訓練を行ったことはない。今後計画したい。自治会長が消防のOBであったことで備蓄の薦めがあり、水、乾パン、非常持ち出し袋を設置した。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの排泄や入浴、更衣等の案内はできるだけ周囲に配慮しながらおこない、声のかけ方もその方の理解度や特徴に合わせている。守秘義務に関しては守れていると思う。	人格の尊重とプライバシーの確保の実例として、一人ひとりへの排泄や入浴、更衣等の案内はできるだけ周囲に配慮しながらおこない、声のかけ方もその方の理解度や特徴に合わせて行うようにし、守秘義務に関しても絶対を守るよう努めている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と過ごす時間を通して希望、関心、嗜好を伺い日常の中で思いや希望を表せるよう新聞広告なども使い、行きたい場所、食べたいもの、好きなものを選んだりしてもらうこともある。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のそのときにしたいことは把握できていると思われる。出来る限り希望に沿えるように工夫しているが、職員側の都合で希望に沿った支援が出来ないこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む服を選んだりしている。入浴後のドライヤーもただ乾けばよいではなく少しでもおしゃれになるようにしたい。また、美容室にはもう少しこまめに行きたい。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせて準備や片付けを依頼し分担できるように声をかけている。見た目の工夫や、あいさつを通して食欲増進や食事時間であることを意識できるようにしたい。	食事は独自メニューで、利用者の希望を入れて自ら買い物から行っている。買い物についても、職員が1人で買い物に行く事を禁止し、必ず利用者を連れて行き、買い物の楽しさを忘れないことと併せて買い物に行くことでの生活リハビリにも心がけている。一人ひとりの力に合わせて準備や片付けを依頼し分担できるように声をかけている。見た目の工夫や、あいさつを通して食欲増進や食事時間であることを意識できるようにしている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状況に合わせ、食べやすい形態にし、好みの食材を献立に取り入れる工夫をしている。飲む量が少ない方には中身や雰囲気を変えたりして飲める工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時に排泄表の記載漏れがあるので申し送りの際、口頭で確認する。30分おきに案内しても尿漏れがある方もいるので、不快感を与えないようなケアに努めている。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らないよう飲み物の工夫や腹部マッサージ、運動などを取り入れ便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	勤務人数に合わせて多くの入居者が入浴できる日を設け、なるべく1日おきの入浴ができるよう目指している（特に皮膚トラブルがある方）。これに伴い、時間を午前・午後に分け担当スタッフも交代していく。拒否のある方には声かけの仕方を工夫するなど個別対応している。	勤務人数に合わせて多くの入居者が入浴できる日を設け、なるべく1日おきの入浴ができるよう目指している（特に皮膚トラブルがある方）。これに伴い、基本的には時間を午前・午後に分け担当スタッフも交代し行っている。拒否のある方には声かけの仕方を工夫するなど個別対応している。職員の余力のある範囲での時間外の入浴や、予定外の入浴希望にも対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の疲れ具合に合わせて休息をとっていただいたり、いつもより早く休めるようになどその日の状態に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理や服薬支援はそれぞれに合わせておこなっている。処方内容や副作用等については薬表を添付してその都度確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日のなかで出来ることや得意なことが活かせるように役割を持っていただいている。好きなテレビを見たり、買い物などで気晴らしできる時間を作っているがもう少し内容を広げたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩など時間の許す限り外出している。今後は車椅子の方も多く外へ出られるような工夫をしたい。	普通の散歩等の他に、買い物の動向、ドライブなど時間の許す限り外出している。今後は車椅子の方も多く外へ出られるような工夫をしたい。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在出納については職員が管理している。買い物へ一緒に出かける機会も多いので今後は支払いなどを一緒におこなってみたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば使えるようにしている。自ら連絡を取れるような方が少ないので今後は手紙などのやりとりで工夫していきたい。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ整理整頓し不快感のないような生活が送れるように心掛けている。台所も対面式なので食事の時間は分かりやすいと思われる。カレンダーや時計は意識するようにしている。	幼稚園的にならぬよう、アダルトなインテリアを心がけている。具体的には季節の生花、イベントの写真などのインテリアなどである。整理整頓に心がけ、不快感のないような生活が送れるように支援している。台所も対面式なので食事の時間は分かりやすいと思われる。カレンダーや時計は意識して頂くようにしている。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のほかにソファを設けそこでくつろいだり、入居者同士が過ごしたりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具を持ってきていただきできるだけ違和感がないようにしている。居室の整頓や写真、貴重品の整理に配慮している。	火気に関するもの以外は、入居時に自宅で使用していた家具を持ってきて頂き出来るだけ違和感がないようにしている。居室の整頓や写真、貴重品の整理に配慮している。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりがあることによって本人の持つ力を活かしていると思う。床面や物の配置には配慮している。			

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことをその方の状況に合わせて整えていくことを通していきいきとした生活を送ることができるようにと考えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域でのお祭りやどんど焼などに参加している。民生委員やボランティアさんからミニデイの案内をいただくので参加させてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な機会はないが、地域の方からの相談があれば気軽に応じている。今後、地域包括支援センター等と協力していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方にも参加していただき事業内容への意見を求め、参考にしている。公表後の外部評価については説明し目を通していただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの現状や介護保険制度について市町村はもちろん市議会議員等とも話し合う機会を得ている。できるだけ事実を伝えお互いに協力しあえる関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から物理的拘束、精神的拘束等については職員に説明している。外に出たいときには希望に沿うようにし見守りをしているが、玄関の鍵は施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会を持つようにしている。職員の不適切な発言や行動があればその都度注意するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方はいないが子供のいない方もいるので今後、検討する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回の契約は時間をかけ丁寧に説明し同意を得るように心がけている。内容の変更があるときもその都度同意書や変更となった書類を説明し、納得いただいた上で印鑑等をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けていないが、来所時はこちらから声をかけ話しやすい雰囲気を心掛け、入居者様の日頃の暮らしぶりについては紙面で毎月送付している。ご意見シートを用意しいつでも記入できるようにしている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングのほかに職員会議や提案制度を設けるなどしてできるだけ日頃勤務している職員から自由な意見が聞けるように配慮している。今後は定期的に面談等をし仕事への意欲が高められるようにしていきたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員配置や労働時間等できる限り勤務しやすい環境作りをおこなっている。また、一人一人の勤務実績に応じて年末に寸志として出すこともある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時の研修は具体的な取り組みを示し他職員も理解できるように工夫している。現職員には毎月のミーティングや外部研修を受けることによってスキルアップが図れるように取り組んでいる。今後は外部研修参加後に研修発表会を計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の介護保険関係の会合等には積極的に参加できるようにしている。相互研修の機会を活かし研修に出向いたり、来ていただくこともおこなっている。市内の各事業所に訪問し近況のお知らせを実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定前に本人と会い、現在の生活状況やこれまでの生活歴をうかがっている。入居にあたって心配なことや要望なども出来る限りお聴きし関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み前には必ず見学にいらしていただきお話をうかがっている。信頼関係が築けるよう丁寧に対応するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、満室や他の理由で受入が困難の場合には他施設の空き情報を確認し紹介するなどして他サービスへつなげられるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多くの入居者に得意分野で力を発揮してもらうように心がけている。時には入居者からいたわりの言葉や、励ましてもらう場面もある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食欲がないときは好きな食べ物を再度家族へ聞き準備したり、時には一緒に考えたりすることもある。外出なども家族の協力を依頼することがある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が一番大切に思っている人の存在を知るようにし、その方とのつながりが継続できるように支援している。知人、親戚の訪問などは自由にいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲の良し悪しに配慮しつつ、一緒に料理や散歩するなどおこなっている。手をさするなどのちょっとしたいたわりあいが見られることもしばしばある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用しなくなっても自由に訪問していただいたり、必要時には要望にこたえるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴等を参考にし本人との会話や表情などから知るように努めている。職員間ではミーティングで検討しあう時間を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴やサービス利用に至るまでの様子をうかがっている。当時の様子はフェイスシートに記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や、状態については記録に残し申し送りもおこない把握している。「できること」などは特に知ってもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成の段階で本人や家族から要望等をうかがっている。職員間でも検討する時間を設け、今、必要なことを介護計画として作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は介護計画の目標に対しての経過や結果を記載している。日々の情報は業務日誌に記録し職員は毎回、情報を得てから勤務に就いている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が全てを担うのではなく、必要に応じて訪問栄養指導を取り入れるなど積極的に外部のサービスも導入しようとしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ミニデイや地域の行事に参加し、ホーム内だけの生活にならないようにしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関には職員が付き添うが受診前と後には必ず家族へ連絡し状況を伝えている。それ以外への受診は家族の協力を得ているが受診内容については聞くようにしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化があるときはすぐに相談できる看護師がいる。緊急時には24時間連絡がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリー等を作成しホームでの様子を知っていただくように努めている。退院時には担当看護師や医師に話を聞く機会を設けてもらい退院後の生活に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医からの家族への説明を踏まえ今後どのようなケアをしていくか家族と話し合う場を持っている。話し合った内容は全ての職員が理解し、ケアに参加している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	テキストを基に実習スタイルで内部研修を実施する。今後も定期的に年数回にわけながら実施する予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火事を想定した避難訓練を実施予定。運営推進会議では地域の方の協力が得られるような体制作りを検討しているが実際に合同訓練を行ったことはない。今後計画したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの排泄や入浴、更衣等の案内はできるだけ周囲に配慮しながらおこない、声のかけ方もその方の理解度や特徴に合わせている。守秘義務に関しては守れていると思う。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と過ごす時間を通して希望、関心、嗜好を伺い日常の中で思いや希望を表せるよう新聞広告なども使い、行きたい場所、食べたいもの、好きなものを選んだりしてもらうこともある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のそのときにしたいことは把握できていると思われる。出来る限り希望に沿えるように工夫しているが、職員側の都合で希望に沿った支援が出来ないこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む服を選んだりしている。入浴後のドライヤーもただ乾けばよいではなく少しでもおしゃれになるようにしたい。また、美容室にはもう少しこまめに行きたい。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせて準備や片付けを依頼し分担できるように声をかけている。見た目の工夫や、あいさつを通して食欲増進や食事時間であることを意識できるようにしたい。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状況に合わせ、食べやすい形態にし、好みの食材を献立に取り入れる工夫をしている。飲む量が少ない方には中身や雰囲気を変えたりして飲める工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時に排泄表の記載漏れがあるので申し送りの際、口頭で確認する。30分おきに案内しても尿漏れがある方もいるので、不快感を与えないようなケアに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らないよう飲み物の工夫や腹部マッサージ、運動などを取り入れ便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	勤務人数に合わせて多くの入居者が入浴できる日を設け、なるべく1日おきの入浴ができるよう目指している（特に皮膚トラブルがある方）。これに伴い、時間を午前・午後に分け担当スタッフも交代していく。拒否のある方には声かけの仕方を工夫するなど個別対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の疲れ具合に合わせて休息をとっていただいたり、いつもより早く休めるようになどその日の状態に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理や服薬支援はそれぞれに合わせておこなっている。処方内容や副作用等については薬表を添付してその都度確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日のなかで出来ることや得意なことが活かせるように役割を持っていただいている。好きなテレビを見たり、買い物などで気晴らしできる時間を作っているがもう少し内容を広げたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩など時間の許す限り外出している。今後は車椅子の方も多く外へ出られるような工夫をしたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在出納については職員が管理している。買い物へ一緒に出かける機会も多いので今後は支払いなどを一緒におこなってみたい。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば使えるようにしている。自ら連絡を取れるような方が少ないので今後は手紙などのやりとりで工夫していきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ整理整頓し不快感のないような生活が送れるように心掛けている。台所も対面式なので食事の時間は分かりやすいと思われる。カレンダーや時計は意識するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のほかにソファを設けそこでくつろいだり、入居者同士が過ごしたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具を持ってきていただきできるだけ違和感がないようにしている。居室の整頓や写真、貴重品の整理に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりがあることによって本人の持つ力を活かしていると思う。床面や物の配置には配慮している。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所

どんぐり庵

作成日

H21年 11月 31日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所内での避難訓練は実施しているが、近隣の協力を得た訓練の実施はできていない。	近隣の方の協力を得ながら、避難訓練を実施する。	年2回の訓練のうち、1回は近所の方の参加を依頼する。	6ヶ月内
2	49	日常的に外出する機会を持っているが馴染みの場所等へ案内することができていない。	馴染みのある場所へ外出することができる。	誕生会や行事を利用しなじみの場所へ外出する機会を持つ。	3ヶ月内
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。